

2015年8月17日
株式会社東陽テクニカ

**五島列島沖の海底に沈む
旧日本海軍の大型潜水艦の発見に貢献
～自律型無人潜水機・遠隔操作水中ロボットを使って～**

株式会社東陽テクニカ（本社：東京都中央区、代表取締役社長：五味 勝、以下 東陽テクニカ）は、日本テレビ放送網株式会社（本社：東京都港区、代表取締役 社長執行役員：大久保 好男、以下 日本テレビ）による長崎県五島列島沖の沈没潜水艦調査に協力し、東陽テクニカ取り扱いの自律型無人潜水機および遠隔操作水中ロボットなどの海洋調査装置を用いて、水深約 200 メートルに沈んでいる旧日本海軍の大型潜水艦「伊 402」と思われる沈没潜水艦の発見・撮影に成功しました。

【背景】

「伊 402」は、太平洋戦争中に旧日本海軍によって米国本土を攻撃するために建造されたもので、全長約 122メートル、水中排水量約 6,600トン、水上攻撃機を 3機搭載する、当時世界最大の潜水艦でした。終戦後アメリカ軍が接收し、1946年4月に長崎県五島列島沖にて海没処分されました。

今回、東陽テクニカは、日本テレビの「真相報道バンキシャ！」の取材チームが行った「伊 402」探査に協力し、自律型無人潜水機および遠隔操作水中ロボットを操作、「伊 402」と思われる水中構造物のスキャンングおよび撮影とともに、データ解析を行いました。水深 200m の同海域に沈む 24 隻の潜水艦の中から、得られたスキャンング映像と水中撮影映像により「伊 402」をほぼ特定することができました。

今回の探査により、海没処分潜水艦の正確な沈没位置と状態が明らかとなりました。

【調査内容】

今回の調査は、次の 3 段階で行い、最終的に「伊 402」と思われる沈没潜水艦を発見することができました。

1. R2Sonic 社製 “Sonic2024 マルチビーム測深機” による、海没処分艦沈没位置調査

株式会社ウィンディネットワークが、当社納入の Sonic2024 マルチビーム測深機を用いて、公開情報をもとに海没処分海域の精密な海底地形調査を行いました。

使用された「Sonic2024」は、200KHz から 400KHz の超音波を扇状に下方へ発射し、短時間に広域の測深を行うことができる装置です。この調査により、全部で 24 カ所の海底上の高まりを発見し、その内の 1 カ所が「伊 402」の外形的特徴に非常に近いことを突き止めました。

2. TELEDYNE GAVIA 社製 “自律型無人潜水機 GAVIA” による、艦影のスキャン

自律型無人潜水機 GAVIA を「伊 402」と思われる物体の上方を覆うように潜航させました。

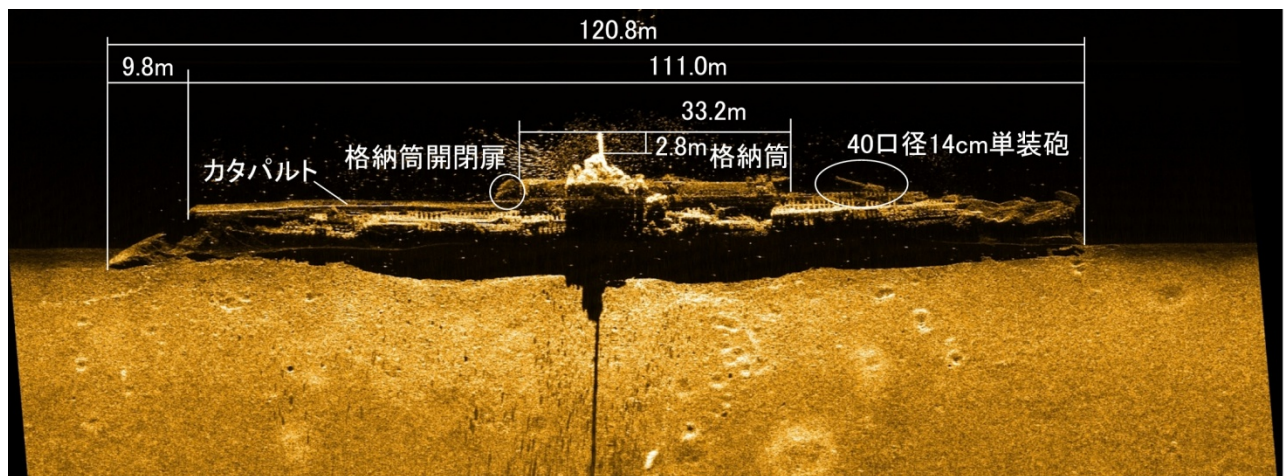
「GAVIA」にはサイドスキャンソナーという超音波を用いた海底の凹凸形状を画像化する装置が搭載されています。この装置で取得された映像で「伊 402」の特徴である艦載機格納筒およびその開閉扉、後部甲板に設置された 40 口径 14cm 単装砲などが確認され、発見された海底上の高まりが「伊 402」であることの確証が得られました。また、「伊 402」が、船首と船尾の一部が破壊されているものの、ほぼ原形を保った状態で沈没していることも明らかになりました。

3. SEAMOR Marine 社製 “遠隔操作水中ロボット” による、ビデオ撮影

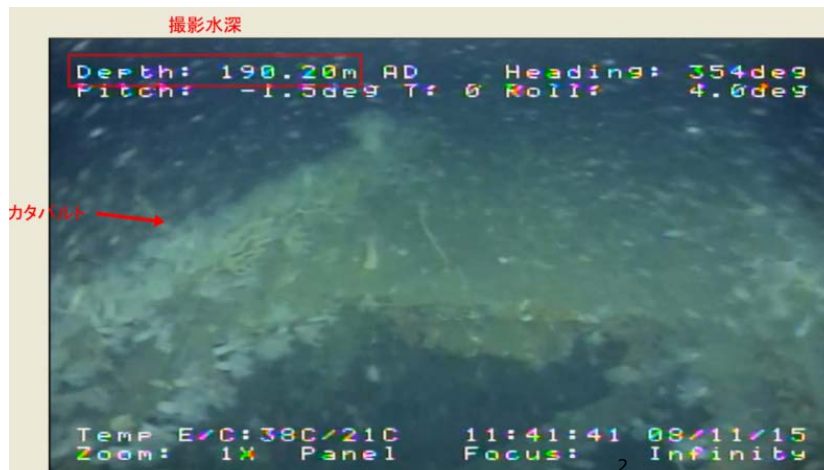
遠隔操作水中ロボットを「伊 402」の船首部付近に降ろし、艦体上部に沿って潜航させました。

「伊 402」は、艦の上部に水上攻撃機を 3 機搭載する格納筒および飛行機が離陸するためのカタパルト（射出機）を有する特徴的な構造を持っていました。遠隔操作水中ロボットによってカタパルトの撮影に成功したことにより、「伊 402」と決定づけることができました。また、格納筒の開閉扉が半開状態であること、上部木甲板の木部が朽ち鉄骨がむき出しであること、40 口径 14cm 単装砲が原形のまま残されていることなども分かりました。

■ 「GAVIA」によるサイドスキャン取得イメージ ■



■ 遠隔操作水中ロボットによる、カタパルト撮影写真 ■



東陽テクニカは、これまでにサミット警備や海底遺跡調査、津波遭難者捜索などに協力してまいりました。今後も、海洋調査機器の販売・納入だけでなく、機器の運用・成果解析までをサポートすることにより、社会に貢献し続けてまいります。

<株式会社東陽テクニカについて>

東陽テクニカは、昭和 28 年の設立より「技術と情報」をキーワードに日本の技術発展に寄与することを使命として、主として最先端の「測るツール」を欧米の電子計測器メーカーより輸入し、日本の研究・開発者に提供してきました。さらに、「電子技術センター」における修理、校正、技術サポートや自社製品の開発、「テクノロジーインターフェースセンター」で行うお客様向けの各種セミナー、トレーニングなどの取組みは、450 名を超える全従業員の 8 割を占めるエンジニアの技術力に裏付けられています。東陽テクニカはこれからも「“はかる”技術で未来を創る」のローガンのもと、「テクノロジーインターフェース」の使命を果たすべく努力してまいります。

東陽テクニカ Web サイト：<http://www.toyo.co.jp/>

★ 本件に関するお問い合わせ先 ★

株式会社東陽テクニカ 海洋計測部

TEL：03-3245-1243（直通）

「Sonic2024」製品サイト：<http://www.toyo.co.jp/page.jsp?id=11747>

「GAVIA」製品サイト：<http://www.toyo.co.jp/kaiyo/GAVIA.html>

「SEAMORE Rov」製品サイト：<http://www.toyo.co.jp/page.jsp?id=19981>

※本ニュースリリースに記載されている内容は、発表日現在の情報です。製品情報、サービス内容、お問い合わせ先など、予告なく変更する可能性がありますので、あらかじめご了承ください。

※記載されている会社名および製品名などは、各社の商標または登録商標です。